

令和8年度

佐賀県小・中学校学習状況調査 及び 全国学力・学習状況調査

－ 調査結果 と 指導改善のポイント －

中学校英語科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
 - ・ 誤答例と生徒のつまずき
 - ・ 指導改善のポイント
- 5 同一生徒の経年比較
- 6 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和8年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

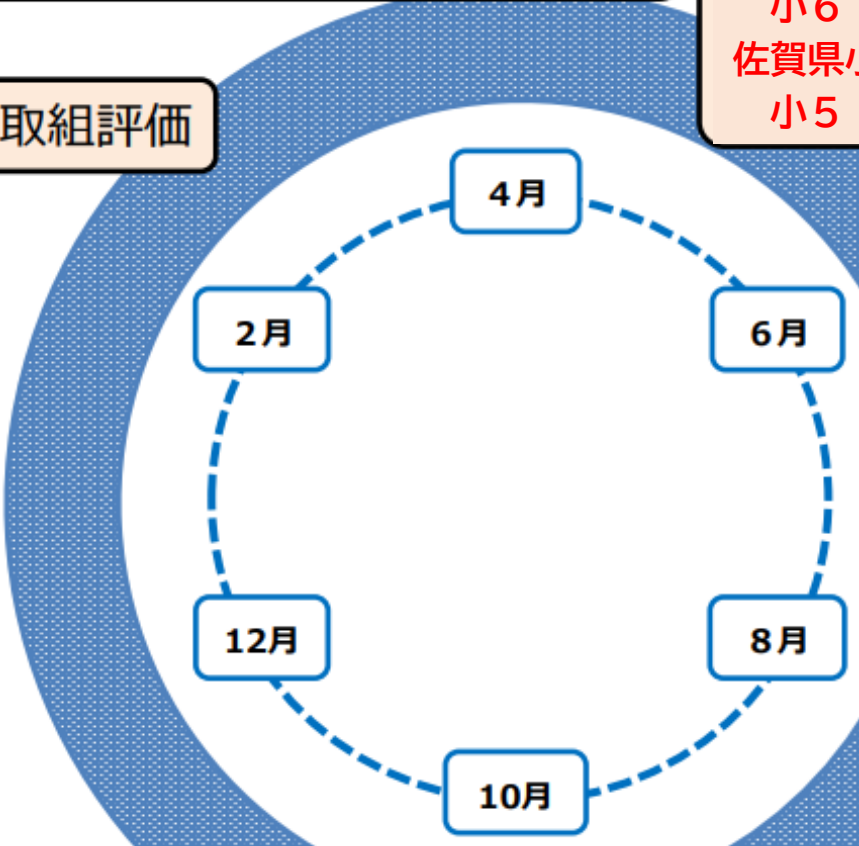
○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和8年4月23日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



・問題分析

・結果分析

・取組の検討

○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

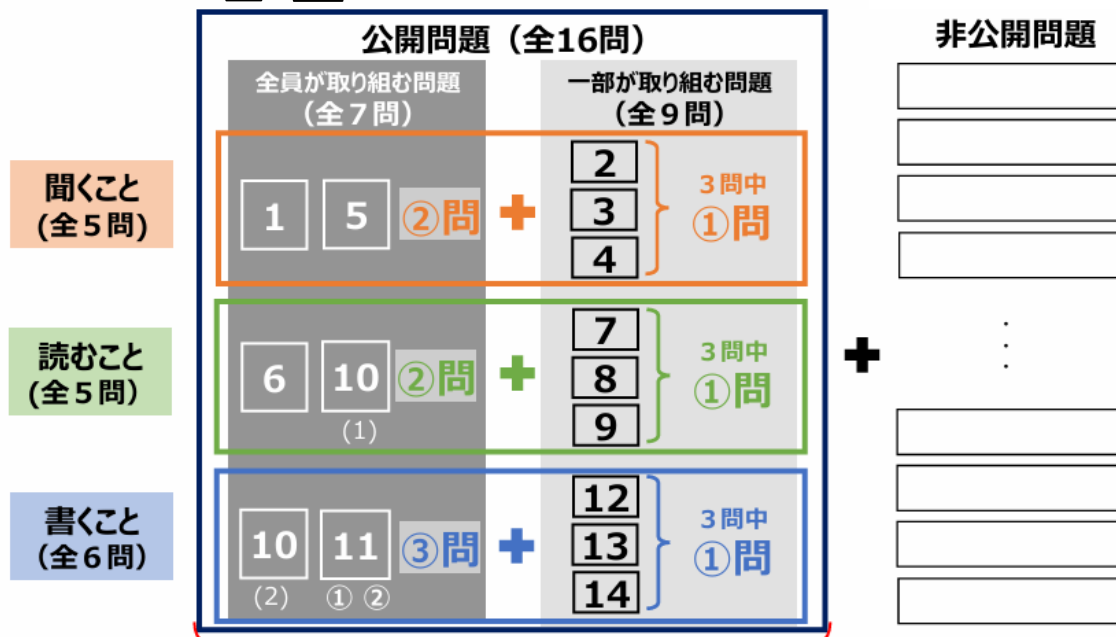
・改善に向けた取組

全国学力・学習状況調査の問題の構成について

- ・ **公開問題**と**非公開問題**を組み合わせで構成されている。
- ・ 公開問題には**生徒全員が取り組む問題**と**一部の生徒が取り組む問題**がある。
- ・ **一部の生徒が取り組む問題**については、同じ学校でも当該問題に取り組む生徒と取り組まない生徒がいるが、学校の生徒全員で全ての公開問題に取り組むことができる設計としている。
- ・ **非公開問題**は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解く。

下の 1～14 は、調査問題の番号に相当

※出題順序は下記のとおりではない。



本資料の

3 成果が見られた設問 と

4 課題が見られた設問 は、

公開問題から抽出しています。



IRT※のメリット

※調査結果は、IRT（Item Response Theory項目反応理論）スコアをベースに示されます。

- ・ 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ・ 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ・ 学力の経年変化を把握できる。

(参考)

	素点方式	
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか	
得点(スコア)の例	0.1 0.2 0.3 0.4 Aさん 5問/7問 (正答率71%)	0.1 0.2 0.3 0.4 Bさん 4問/7問 (正答率57%)
	Aさん > Bさん	

【素点方式】 (従前)

Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）と正答率が高くなる。

	IRT方式	
得点(スコア)の表現方法	どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか	
得点(スコア)の例	0.1 0.2 0.3 0.4 Aさん 0.2	0.1 0.2 0.3 0.4 Bさん 0.3
	Aさん < Bさん	

【IRT方式】

Bさんの方がスコア（どの大きさのランドルト環まで安定的に見ることができたか）が高くなる。



結果返却動画

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

中2英語

年度	県平均正答率	目標値
R 8	45.2 %	50.5 %
R 7	47.3 %	51.5 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－5.3

－4.2

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R8の県平均正答率は、目標値を5.3ポイント下回った。
また、R7と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

知識・技能

中2英語

年度	県平均正答率	目標値
R 8	47.1 %	51.2 %
R 7	50.4 %	55.6 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-4.1

-5.2

R8の県平均正答率は、目標値を4.1ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

中2英語

思考・判断・表現

年度	県平均正答率	目標値
R 8	41.8 %	49.1 %
R 7	44.0 %	47.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-7.3

-3.0

R8の県平均正答率は、目標値を7.3ポイント下回った。
また、R7と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

中2英語

領域	年度	県平均正答率	目標値
聞くこと	R 8	50.1 %	57.2 %
	R 7	56.9 %	60.6 %
読むこと	R 8	48.1 %	51.5 %
	R 7	45.7 %	50.8 %
書くこと	R 8	37.1 %	43.0 %
	R 7	40.7 %	44.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-7.1

-3.7

-3.4

-5.1

-5.9

-3.3

R8の県平均正答率は、全ての領域において目標値を下回った。
しかし、R7と比べると、「読むこと」で改善が見られた。

第2学年では、令和7年度の県調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

○観点別の県平均正答率 「知識・技能」

○領域別の県平均正答率 「読むこと」

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

中3英語

年度	県平均 IRTスコア	全国平均 IRTスコア
R 8	472	499

全国平均との差
(県平均－全国平均)

-27

R8の県平均IRTスコアは、全国平均IRTスコアを下回った。

(参考)

年度	県正答率	全国平均正答率
R 5	39 %	45.6 %

全国平均との差
(県平均－全国平均)

-6.6

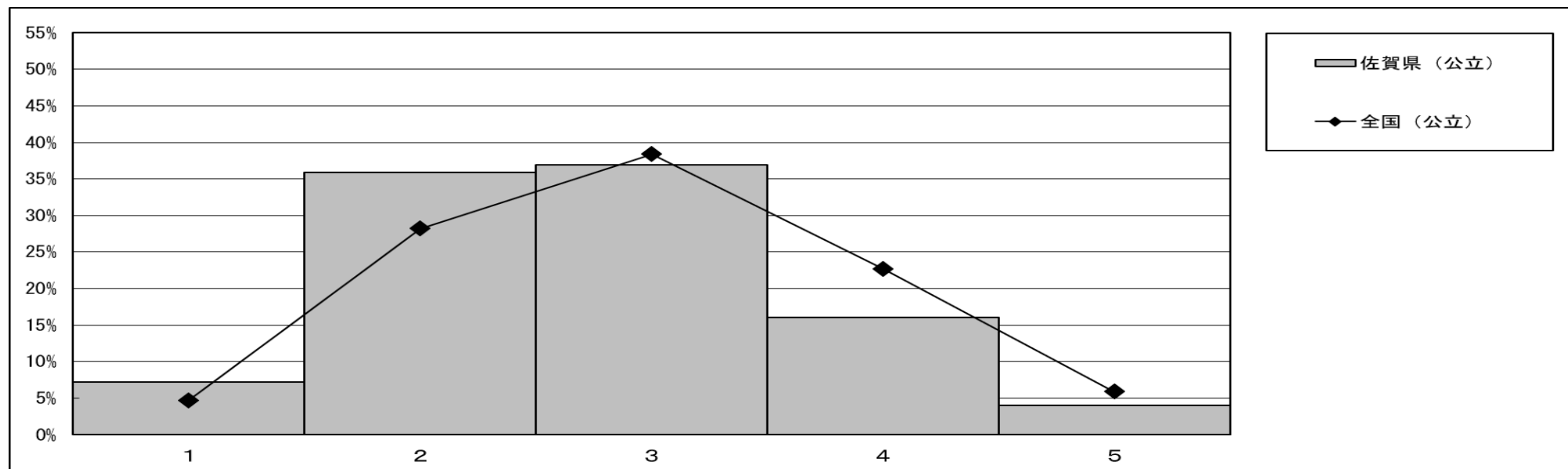
全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

中3英語

IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）

（※標準が3、最大が5）



全国と比較して、中間層に当たるIRTバンド3の割合は同程度であったが、IRTバンド2の割合は大きく、IRTバンド4の割合は小さかった。

3 成果が見られた設問

※ 目標値や全国平均正答率との差が最も大きかった設問や、目標値や全国平均正答率と同程度の設問を取り上げています。

- ◇対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。（現在進行形）（中2）
- ◇対話文を読み、対話の流れと資料から、文脈に応じた英文を選んでいる。（中2）
- ◇日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる。（中3）
- ◇日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。（中3）

4 課題が見られた設問

※ 目標値や全国平均正答率との差が最も大きかった設問や、これまで県の課題とされ、今年度も指導改善が必要と考えられる設問を取り上げています。

指導改善のポイント

英文を聞き、その概要を捉えて、自分の考えを英文で書くことができるようにするために、

□何のために聞かのか目的を明確にした上で、概要を捉えるための聞き取りのポイントを示す。

- ・話の展開を捉えるキーワードに着目する。
- ・5W1Hに着目する。
- ・話の展開を時間軸に沿って整理する。

□話し手の考えや問いかけに対して自分の考えをもちながら聞くよう促す。

□聞き取った内容に対する自分の考えなどを話したり書いたりする言語活動を設定する。

指導改善のポイント

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるようにするために、

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした言語活動を設定する。
例：「過去形を用いて書こう」ではなく、「友達のことを知るために、昨日の出来事についてインタビューをして、分かったことをまとめよう」
- 言語活動において、言語材料を実際のコミュニケーションの中で繰り返し活用する場面を設定する。
- 書いた英文について、生徒自身が読み直したり、ペアやグループでチェックし合ったりして正確な英文に書き直す活動を設定する。

指導改善のポイント

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるようにするために、

- テーマについて書く内容を想起できるように、導入場面において教師と生徒とで対話をしたり、モデルとなる文章を示したりする。
- 思考ツール（マッピングなど）を活用し、テーマに対する事実や自分の考え、気持ちなどを整理して表現する活動を設定する。
- 書いた英文が読み手に応じた適切な内容になっているかを、ペアやグループでアドバイスし合い、書き直す活動を設定する。
- 単元を通して、テーマを変えながら類似の言語活動を繰り返し行う。

5 同一生徒の経年比較

〈 県調査結果と全国調査結果との比較 〉

	小学校			中学校		
学年	第1学年～ 第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
県調査 (4月実施)	第4学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 算数		第1学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 数学 英語	
全国調査 (4月実施)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 算数 (理科)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 数学 (理科・英語)

() 内教科…3年に1回実施

各学校において、経年比較における分析も行ってみましょう。

〈 R 8 全国調査結果と R 7 県調査結果との比較 〉

領域	R 8 全国調査 対全国比※ 1	R 7 県調査 対全国比※ 2	R 8 - R 7
聞くこと	0.92	0.93	-0.01
読むこと	0.87	0.93	-0.06
書くこと	0.81	0.90	-0.09

※ 1 全国調査対全国比 … 県平均正答率÷全国平均正答率

※ 2 県調査対全国比 … 県平均正答率÷調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、大きな変化は見られなかった。

6 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

○授業は基本的に英語で行いましょう。

- ・生徒が英語に触れる機会を増やし、授業全体を実際のコミュニケーションの場としましょう。
- ・日本語による説明を必要最小限にし、英語を使った言語活動の時間を確保しましょう。

○Small Talkや言語活動を通して、テーマに対する自分の考えなどを伝え合う活動を行いましょう。また、伝え合ったことを書く活動につなげるようにしましょう。

○年間を通して、自分の考えなどを表現するパフォーマンス課題をゴールに設定した単元づくりを行いましょう。

授業に役立つ実践研究



プロジェクト研究

研究主題：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
【今年度の研究について】

校種	教科・領域	
小学校	各教科	【小学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ
		【小学校算数科】 授業改善に役立つコンテンツ
中学校	各教科	【中学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ
		【中学校数学科】 授業改善に役立つコンテンツ
		【中学校英語科】 授業改善に役立つコンテンツ

個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）

小学校	各教科	児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくり～指導と評価の一体化を図る授業改善に向けて～
		図画工作科、外国語科
中学校	各教科	児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくり～指導と評価の一体化を図る授業改善に向けて～
		理科、音楽科、美術科

○中学校英語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
語活動を通して、「深い学び」を実現するために～

中学校英語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 Vol.2
～「見方・考え方」を働かせ、言語活動を通して、「深い学び」を実現するために～

1 「深い学び」の実現に向けて

授業改善の視点

具体的な課題等を設定し、生徒が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る

「深い学び」を実現した生徒の姿

・ コミュニケーションを行う相手の文化的背景や状況、関心などを捉えている。

令和7年度 佐賀県教育センター プロジェクト研究(中学校英語科教育研究委員会)

中学校英語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 Vol.2
～「見方・考え方」を働かせ、言語活動を通して、「深い学び」を実現するために～

1 「深い学び」の実現に向けて

授業改善の視点

具体的な課題等を設定し、生徒が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る

「深い学び」を実現した生徒の姿

・ コミュニケーションを行う相手の文化的背景や状況、関心などを捉えている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ、指導と評価の一体化を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

各種研修

受講のための情報

受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ

授業に役立つ実践研究

学習評価の進め方

SAGAせ～る指導案

学習状況調査

「さがんば」(佐賀県学習問題)



これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査を基に作成されたC B T問題です。
児童生徒が、学習eポータルにサインインして、MEXCBT（メクビット）を使い
上で学習することができます。

I 教師用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

II 児童生徒用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

III 問題一覧 ※令和6年3月15日更新

小学校 国語 小学校 社会 小学校 算数 小学校 理科

中学校 国語 中学校 社会 中学校 数学 中学校 理科 中学校 英語



令和5、6年度作成

「さがんば」(佐賀県学習問題) 問題一覧
(佐賀県小・中学校学習状況調査を基にしたC B T問題)

中学校英語

※ 令和4年度以前に作成した佐賀県小・中学校学習状況調査の問題を基に作成しています。
※ 評価の観点にある知技は「知識・技能」、思考表は「思考・判断・表現」を表しています。

さがんば No.	タイトル名 ※タイトル名をクリックすると、 問題プレビューが開きます。	校 種 学 年	単元/領域	出題の趣旨	学習指導要領の 内容	評価の 観点	問題形式	知 技	思考 表	選択 式	短 答 式	記 述 式	チェッ ク
01	「さがんば」(佐賀県学習問題)英語 中1 聞くこと 英語を聞いて、絵を選ぶ	中1		日常的な話題について、その内容を 正確に聞き取る	聞くことア			○		○			
				日常的な話題について、その内容を 正確に聞き取る	聞くことア			○		○			
02	「さがんば」(佐賀県学習問題)英語 中1 聞くこと 対話を聞いて、応答を選ぶ	中1		対話を聞いて、適切な応答を相手 に返す	聞くことア			○		○			
				対話を聞いて、適切な応答を相手 に返す	聞くことア			○		○			
	「さがんば」(佐賀県学習問題)英語 中1 聞くこと			まとまりのある英語を聞いて、内容									

MEXCBT

「さがんば」(佐賀県学習問題) 英語 中2 聞くこと 英語を聞いて、絵を選ぶ 問題: 1/2

(聞き取りテスト)
話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、アからエの中から
1つ選びなさい。

ア イ ウ エ

ア イ ウ エ

00:00 / 00:09

これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査
問題を基に作成されたC B T問題です。
学習eポータルにサインインして、MEX
CBT（メクビット）を使い、オンライン
上で学習することができます。